

特別企画

8月13日(日) 2時から 2階小講習室

*朗読劇「きけわだつみの声」

朗読集団「風」

「風」は、八潮の地域で生まれて6年目になります。「しながわ平和のための戦争展」では、「従軍慰安婦」「人間をかえせ」などを上演していただいています。

*証言

西大井在住 祢津 ユキさん

戦争中品戸越公園の近くに住んでいて5月24日の空襲に合われた方です。当時の品川の様子や、空襲の体験を証言していただきます。



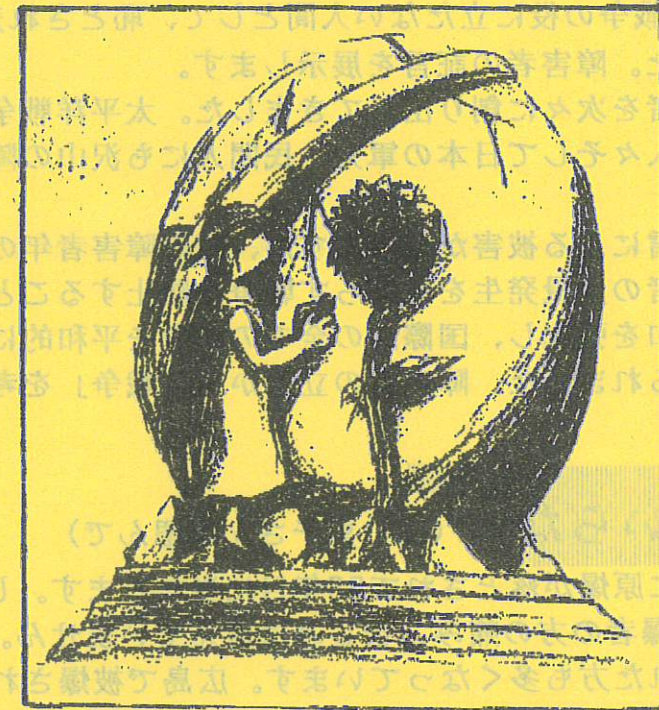
2000年 第17回

しながわ

平和のための戦争展

平和な世界を21世紀へ

—くり返すまい戦争への道



とき 8月11日(金)～14日(月)
10:00～20:00 (最終日は18:00まで)
ところ 品川区中小企業センター
大井町線下神明駅下車2分

【主催】 しながわ平和のための戦争展実行委員会

連絡先 03-5742-7563西條 03-5498-1728田淵

核兵器はいらない
わたしからあなたへ

核兵器はいらない
あなたから世界へ

この平和の波を前に
山口ユキ子

1988.5.9

戦争と子どもたち

「神の国」「国体」「銃後」と続いた発言に、時代錯誤と捉えた人もいるけれど、比較的若い世代の方の中には、一体何のことだろうかと思った人もいと聞きます。大東亜戦争とも言われたあの戦争の頃、子どもたちはどんな教育を受け、どんな生活をしていたのか、写真や絵、作文、教科書などを通して見直してみたいと思います。戦時の教育が子どもにどんな影響を与えるのか、ともに考え、話し合うきっかけにしてください。



戦時下の小学校の式典 「紀元節」や「天長節(天)

障害者と戦争

戦争中障害者は、戦争の役に立たない人間として、恥とされ差別され隠される存在でした。障害者の証言を展示します。

また、戦争は障害者を次々に創り出してきました。太平洋戦争で日本軍は、侵略した国の人々そして日本の軍人、民間人にも沢山の障害者を生み出しました。

最近の紛争では地雷による被害が有名ですが、国際障害者年の行動計画の中でも、「障害者の大量発生をもたらす戦争を防止すること、従ってこのために国際平和を強化し、国際間の全ての紛争を平和的に解決」していく努力が訴えられました。障害者の立場から「戦争」を考えてみたいと思います。

21世紀に核はいらない (山口勇子さんを偲んで)

今年、広島、長崎に原爆が落とされて55年目に当たります。しかし、今なお30万に近い被爆者の方の痛み、苦しみが癒えていません。また、高齢となり亡くなられた方も多くなっています。広島で被爆された山口勇子さんも今年1月他界されました。山口勇子さんは、『おこりじぞう』ほか多くの文学作品を出版され、品川区内にあっても“核兵器と人類は共存できない”と強く主張して原水爆禁止のために活動されました。今、世界は21世紀を前にして“核兵器のない世界”に向けた世論と運動が世界の隅々から起こっています。国連総会では近年、核兵器廃絶を求める決議が圧倒的多数の賛成で採択されています。世界の動きにも目を向けましょう。



侵略戦争とアジア

1931年9月18日、日本軍は中国東部の柳条湖で南満州鉄道を爆破、中国軍のしわざとして一斉攻撃を開始しました(満州事件)。これが、「十五年戦争」と呼ばれる戦争の始まりでした。

中国への侵略戦争は、「殺しつくし」「焼きつくし」「奪いつくす」作戦を行い、東南アジア・太平洋地域の人々にも多大な苦痛を与えてきました。過去の歴史を正しく認識し、21世紀への教訓としなければ……と考えます。



日本国憲法とガイドライン

日本国憲法が施行されて53年立ちました。戦争の焼け跡から立ち上がった国民は、憲法第9条の理念と精神を平和共存の理念として誇り、宝として大切にしていこうと努力してきました。

しかし、一部の「軍事大国中毒症」になった人たちは、紛争が会ったときには、いつもその巨大な軍事力の下で、解決したいと考えて、憲法第9条も浸食し続けて来ています。

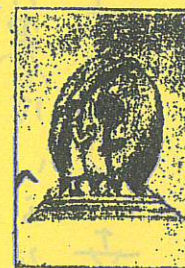
日本を再び「戦争をする国」とさせないために新ガイドライン関連法の発動をやめさせましょう。

世界の子どもの平和像を東京につくろう

品川高校生平和ゼミナール

1999年5月、“世界の子どもの平和像を東京に作る会”が結成されて1年経過しました。320名の小、中、高校生からデザインの応募があり、去る5月28日の集会で、参加者の投票により候補が4点選ばれました。練馬区の中学生の作品です。300名を超える会員、そして多くのカンパも寄せられています。

核兵器と戦争のない21世紀を目指して、2001年の除幕をとほりきっています。



投票で選ばれた4つの案